

小 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

目 次

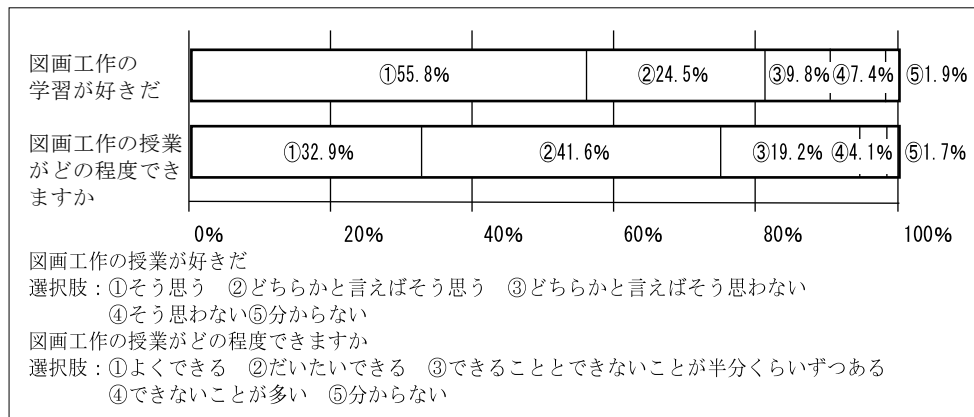
I	研究主題設定の理由	1
II	目指す児童像	2
III	研究仮説	3
	1 研究仮説	3
	2 研究の視点	4
	3 研究方法	5
IV	研究の内容	6
	1 研究構想図	6
	2 〈検証授業1：第3学年〉	7
	3 〈検証授業2：第4学年〉	11
V	研究の成果と課題	15

主体的に造形活動に取り組み、自分らしくやり切る児童の育成 ～「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセスの充実～

I 研究主題設定の理由

「小学校学習指導要領解説図画工作編（平成 29 年 7 月）」（以下、「小学校学習指導要領解説図画工作編」と表記。）には、「造形遊びをする活動においても、絵や立体、工作に表す活動においても、児童は、自分が納得するまでつくったり、活動の終わりを自分で決めたりしている。それぞれの児童が自分らしくやり切る学習活動は、図画工作科の特質ともいえる。」と示されている。しかし、平成 24 年度小学校学習指導要領実施状況調査の質問紙調査では、「図画工作が好きだ」という問いに、「そう思う」と回答している児童が 55.8%であるのに対して、「図画工作の授業がどの程度できますか」という問いに、「よくできる」と回答している児童は 32.9%であった。この数値から、半数以上の児童が「図画工作が好きだ」と感じ

ているものの、児童自身が、図画工作の授業で取り組んだ学習活動を通して達成感や充実感を感じていない状況が見られ、児童が図画工作の授業で、「やり切れていない」状況であるのではないかと捉えた。



「平成 24 年度 小学校学習指導要領実施状況調査 教科別報告書（図画工作）」
 （国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 27 年 2 月）第 6 学年児童質問紙調査の結果より作成

「自分らしくやり切る」学習活動の実現には、活動の始めから終わりまで、児童の主体的な活動の継続が重要である。主体的な活動は、児童が表現に向かう必然性を感じることから始まると考える。児童は、表したいこと、材料、表し方の工夫など、様々な選択肢の中から、意味や価値があると考えたものを選び、試していく。そして、できることが増えていくことにより、自分の力でできたという手ごたえを感じ、課題を解決していくことに喜びを見付け、さらに新しい課題に挑んでいく。また、図画工作の学習活動の中で、友達との対話、教師との対話等を通して、新しい発見をし、発想が豊かになり、新たな意欲が生まれてくる。そのような活動の中で、児童は造形的な視点を働かせながら、「つくり、つくりかえ、つくる」行為を繰り返し、結果「自分らしくやり切る」ことにつながっていくと考える。

小学校学習指導要領解説図画工作編には、図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のためには、表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習

が充実するようにすることが大切であると示されている。また、「造形的な見方・考え方」とは、児童が感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出すことであると示されている。

このことから、児童が「自分らしくやり切る」姿とは、児童が造形的な視点を働かせながら、「つくり、つくりかえ、つくる」活動を重ねた上で辿り着く、深い学びに結び付いた姿として捉えることができるのではないかと考え、研究主題を設定した。

II 目指す児童像

本研究では、「自分らしくやり切る」児童の育成を目指した。

創造的な造形活動とは、児童が感性や造形的な見方・考え方を働かせながら展開されるものであると考える。活動の主体は児童であり、教師の価値観でよさを示したり、決められた完成形に近付けるように教師が指導したりすることは、児童の主体性を妨げることに繋がりがねない。つまり、児童自身のつくることに向かう必然性や、つくりたいという思いがあり、それを児童自身の力によって実現していくことが大切であると考える。そうした体験を通じて、児童は学びに向かう力を育てていく。本研究では、学びに向かう力を発揮しながら、「つくり、つくりかえ、つくる」活動を重ねることによって、「自分らしくやり切る」ことにつながっていくと考え、研究を進めてきた。

本研究が目指す「自分らしくやり切る」児童の姿とは、授業中の児童から発される以下のようなつぶやきに象徴される姿である。

- ・ 「できた」…一人一人が達成感を感じている。
- ・ 「これがいい」…活動のゴールを自分で見付けている。
- ・ 「できるようになった」…めあてに向かって取り組み、児童が自身の成長を感じている。
- ・ 「すぐに持ち帰りたい」…作品に愛着をもっている。

例えば、授業中、周りの児童がまだ活動に夢中になっているときに、「終わりました。これでいいですか。」と作品を教師に見せに来る児童がいる。活動や作品に満足したり納得したりして活動を終わらせた場合もあるが、思い通りにできなかつたり、活動に飽きたりして、「もうこれでいいか。」と安易に活動を終わらせるということもある。これは、「自分らしくやり切る」という姿ではない。「自分らしくやり切る」とは、児童が「これがいい。これがつくりたかった。」と思えるまで自分の表現を追求し、達成感を積み重ねることを通して行き着くものであると考える。達成感を積み重ねることによって、児童は自分の中から生み出された作品に価値や意味を見付け、そこに自分らしさを見だし、そして自身の成長を感じるのではないだろうか。自分の作品を大切に思うことは、自分自身を、ひいては他者を大切に思うことにもつながっていくと考える。

「自分らしくやり切る」活動を通して得られる経験の積み重ねは、自分らしく感性を働かせながら、創造性・独創性を発揮していく力となると考える。児童は、そうした力を育てていく自分を肯定的に捉え、自分らしい未来を思い描いていくのではないだろうか。このようなことから、本研究では、「自分らしくやり切る」児童の育成を目指すこととした。

Ⅲ 研究仮説

1 研究仮説

児童が自身の学習の状況を把握し、友達と交流しながら、「思いをもつこと」と「思いを形にすること」を繰り返すことで、「つくり、つくりかえ、つくる」活動が充実し、自分らしくやり切ることができるだろう。

本研究で課題として挙げた児童の実態は、活動の始めは意欲をもって取り組めるが、「自分らしくやり切る」まで至らないことがあるということである。例えば、授業中に、児童が「うまくできない。」と言う場面がある。この「うまくできない。」という言葉は、その時々や児童によって意味が異なる。どうすればよいか分からない、ぴったりの表現が見付からない、思い通りに表現ができないなどである。この時、児童は「思いをもつこと」や「思いを形にすること」ができず、活動が停滞していると考えられる。この状況が、意欲が低下する原因の一つであると考えた。一方で、児童は、材料から発想を広げたり、友達の活動を見たり、失敗を生かしたりして、新たな思いや価値を見付けることがある。これは、対話などを通して、「思いをもつこと」と「思いを形にすること」が相互に働き、児童が造形的な視点を働かせながら「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセスが充実していたと考えられる。

このことから、「思いをもつこと」と「思いを形にすること」が相互に働き合い、主体的な活動が継続することによって、「自分らしくやり切る」ことにつながると考えた。

(1) 本研究における「思いをもつこと」と「思いを形にすること」

小学校指導要領解説図画工作編には、以下のような力などが働いている姿は、児童の造形的な資質・能力が自然に発揮されている姿ともいえると示されている。

- ・ つくりだす喜びを味わうとともに、見たり感じたりする力
- ・ 次にどのような形や色にするかを考える力
- ・ それを実現するために用具や表し方を工夫する力
- ・ 一度つくったものを改めて見て、新たなものをつくり出そうとする力

「思いをもつこと」とは、「こうしたい。」「こんな風につくりたい。」という表したいことを思い付くことや、「もっとつくりたい。」という意欲をもっている姿である。また、「思いを形にすること」とは、自分の思いを実現するために発揮する力のことである。既習の技能を生かし、意図に応じて材料や用具、表し方を選ぶことや、視点を変えて、立て直して取り組んだりする力を働かせていることである。

(2) 「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセスの充実に向けて

本研究では、「思いをもつこと」と「思いを形にすること」ことが働き合い、「つくり、つくりかえ、つくる」活動が充実するよう、以下の2点を大切にしたい。

- ・ 児童が自身の学びを見通したり、把握したりする。
- ・ 自他の思いを大切にし、認め合う。

これらの機会を設けることで、発想を転換したり、意欲を維持したり、高めたりすることにつながると考えた。【ワークシートの活用】【交流する場面の設定】を手だてとして、活動の始めや終わりだけでなく中盤にも取り入れることが有効だと考えた。

2 研究の視点

本研究では「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセスの充実に向けて、以下の2点を研究の視点として設定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることとした。

(1) ワークシートの活用

活動の見直しをもったり、振り返ったりすることは、児童が自身の頑張りや成長に気付くだけでなく、自分が直面している課題に気付くことにもつながる。活動の見直しや振り返りを可視化し整理しておくことによって、思い通りにできなかつたり、悩んだりしたときなどに確認し、次の目標や見通しがもちやすくなる考えた。

ワークシートは、活動の始め、中盤、終わりに活用することとした。内容は、テーマ、材料、方法、色、形、気が付いたことなどを児童が意識できるように項目立てた。また、言葉で表現するだけでなく、アイディアスケッチや絵や図を描くこともできるようにした。

教師は、ワークシートに書かれた内容から一人一人の学習過程を把握することによって、課題解決の方法を提示したり、共感的な言葉掛けをして励ましたりするなど、個に応じた支援の手掛かりとして活用できる。

(2) 交流する場面の設定

児童は、鑑賞活動など友達との交流を通して、それぞれの発想の違いやよさに気付いたり、自分の活動のヒントとなることを見付けたりすることができる。さらに、自分の作品について説明したり、相手のよさを伝えたりするなど、気付きや学びを言語化することによって、自分の考えや学びを整理したり、うまく言葉にできなかつたことを友達の言葉から見付けたりすることもあるだろう。気付きや学びを言語化することで、自分の思いを再確認したり、新たにやってみたいことを思い付いたりすることができるのではないかと考えた。また、これまでの学びを価値付けることによって、粘り強く試行錯誤する意欲が高まり、「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセスが充実するのではないかと考えた。

交流する必然性が生まれる場面を設定するために、「鑑賞ツール」(自分の写真や扉など)を使って見に行く、展示場所を工夫するなど、児童が友達の作品と関わりたくなるようにした。また、友達と作品を見合う活動に加えて、それ以外の場面でも日常的に友達の活動が目に入るような環境づくりも効果的であると考え、材料の置き場の工夫や児童の動線の工夫をした。

このような工夫を行うことによって、より多くの対話が行われることにつながると考えられる。この対話には、友達と直接交流することによる対話だけではなく、児童の内面で行われる自分自身との対話も含まれる。

3 研究方法

(1) 基礎研究

以下についての文献研究を行い、主体的に造形活動に取り組み、自分らしくやり切る児童を育成するための「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセスの充実に向けた授業改善について考察した。

- ・小学校学習指導要領（文部科学省 平成 29 年 3 月）
- ・小学校学習指導要領解説図画工作編（文部科学省 平成 29 年 7 月）
- ・小学校学習指導要領実施状況調査教科別報告書（図画工作）（国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 27 年 2 月）
- ・児童生徒の学習評価の在り方について（報告）（文部科学省 平成 31 年 1 月）
- ・中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）

(2) 児童の実態を把握するための授業

研究の方向性を設定するため、児童の実態把握の視点を位置付けた授業を行った。

題材名 「〇〇小 みまもるくん」A 表現(1)イ (2)イ B 鑑賞(1)ア 対象 第3学年

題材の目標

自分の見方や感じ方を生かし、場の様子や役割などから「みまもるくん」を想像し、材料や道具の使い方を工夫し、表現する。

児童の意欲を継続するための手だての在り方について（活動中盤での手だての工夫）

ワークシート：場の役割と「みまもるくん」のいる意味を関係付け、意識させる。
制作中盤の見る活動：制作中盤で、「みまもるくん」をいるべき場所に置きに行く。環境や場との関わりから発想を広げたり深めたりできる。

【授業から見えた研究の方向性】

- ・ ワークシートは、次にどのようにするか迷った時に、自分の思いに立ち返るための有効な手だてとなっていた。導入や終わりだけでなく、活動の中盤でも活用することで、次の目標や見通しがもちやすくなるだろう。
- ・ 交流の場を設けることは、見方を変えたり、新たな発見をしたり、つまづきを自ら解決したりするための手だてとして有効だと考えられる。

(3) 実践研究（検証授業）

研究仮説に基づいた題材の指導計画を構想し、以下の2回の検証授業を通して【ワークシートの活用】と【交流する場面の設定】が「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセスの充実につながるかを検証する。

(1)	題材名 「のぞいた先には」A 表現(1)イ (2)イ B 鑑賞(1)ア
(2)	題材名 「いろいろなかぼこから広がる世界」A 表現(1)イ (2)イ B 鑑賞(1)ア

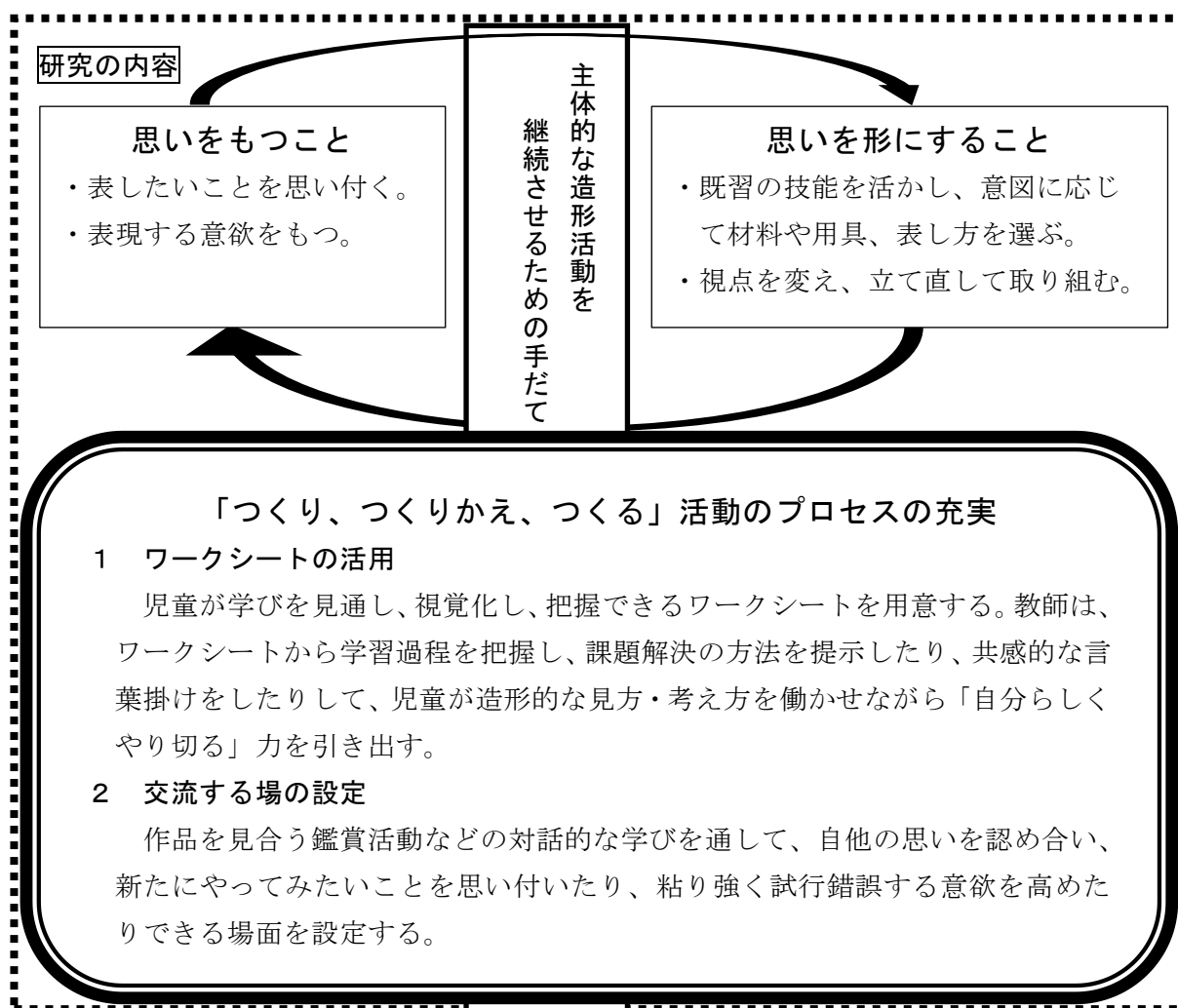
IV 研究の内容

1 研究構想図

教育研究員全体テーマ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

研究主題 主体的に造形活動に取り組み、自分らしくやり切る児童の育成
～「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセスの充実～

研究仮説 児童が自身の学習状況を把握し、友達と交流しながら、「思いをもつこと」と「思いを形にすること」を繰り返すことで、「つくり、つくりかえ、つくる」活動が充実し、「自分らしくやり切る」ことができるだろう。



目指す児童像 自分らしくやり切る（自分で活動や作品の価値や意味を見付けている）児童

- ・ 「できた」…一人一人が達成感を感じている。
- ・ 「これがいい」…活動のゴールを自分で見付けている。
- ・ 「できるようになった」…めあてに向かって取り組み、児童が自身の成長を感じている。
- ・ 「すぐに持ち帰りたい」…作品に愛着をもっている。

2 検証授業①

- (1) 題材名 「のぞいた さきには」 A 表現(1)イ (2)イ B 鑑賞(1)ア 対象 第3学年
 (2) 題材の目標と研究主題との関連

題材の目標

箱の中をのぞいた先に見える想像の世界を、表したいことを工夫しながら、材料の特徴を生かして楽しくつくる。

共通事項

ア：写真や紙材の特徴を捉え、形や色などの感じが分かること。
 イ：写真と紙材の組み合わせた感じを基に、自分のイメージをもつこと。

研究の視点 「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセス

友達と交流しながら発想したり、表し方を試行錯誤したりしながら、自分らしく作品をつくりあげることができる。

具体的な手だて

【ワークシートの活用】

- ・ 要素を分解して記入をすることができるワークシートを活用して、児童が思いを形にする際に必要な要素が明確になるようにする。
- ・ ワークシートは、視点を明確に示して、授業のプロセスに応じて振り返りを行うことができるようにする。

【交流する場面の設定】

- ・ 自分の写真を友達の作品に組み合わせながら鑑賞する場面を設定する。
- ・ 友達と作品を通じた交流を行い、よい場면을相談しながら試行錯誤してタブレットで撮影する場面を設定する。
- ・ 児童と材料の距離や動線、友達の作品との関わり方を、事前に教師が予想して配置することで、活動の中で自然に表現と鑑賞を繰り返すことができるようにする。

(3) 題材の評価規準


造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表したいことをもち、材料の特徴やよさを生かして学習に取り組もうとしている。	表したいことや用途を基に、材料や友達との交流を生かしながら、楽しい世界を発想している。	素材の特徴やよさを十分に生かし、材料の使い方やつくり方を工夫している。	友達の表し方に共感したりよさを感じとったりして自分の造形的な見方・考え方を広げている。


(4) 指導観

中学年の児童は、周りの物事を造形的に捉えながら表現できるようになっていく。それは、材料を何かに見立てたり、場との関わりを考えたり、身近材を工夫したりするなど、身の周りの物事を、図画工作科の造形的な見方・考え方を通して捉える活動である。

本題材は、「箱の中をのぞいて見ると、どんな世界が広がっているかな。」という声掛けから始まる。児童が自分の写真と紙を中心とした材料を組み合わせて、箱の中に想像した世界を自由に立体構成をする題材である。この題材の大きな要素として、自身の写真を、「わたしの世界」を考える起点として設定していることが挙げられる。児童は、自分が考えた箱の中の世界で「自分は何をしているかな。」と想像を膨らませる。「わたしの世界」でつくりたい世界に合わせて、自分自身の写真のポーズを工夫して表現に取り組む。

(5) 題材指導計画 (全8時間)

時	めあて 学習内容	指導上の留意点	具体的な評価規準
1	<p>箱の中をのぞいて見ると、どんな世界が広がっているでしょう。「わたしの世界」を考えてみましょう。</p> <p>・実際にのぞき穴のある箱（何もない状態の箱）をのぞく。</p> <p>【ワークシートの活用】</p> <p>・ワークシート①を記入する。</p> <p>・ワークシート①の要素を基にして、「わたしの世界」のアイデアを広げる。</p> <p>・全体で、箱の中にこんな世界があったら楽しい、面白いということについて意見を出し合い、それぞれの作品づくりの参考にする。</p>	<p>・「箱の中をのぞいて見ると、どんな世界が広がっているでしょう。」の主題から、児童がイメージを広げていけるように声掛けをする。</p> <p>・写真にするポーズや使用する材料等をワークシート①に記入させることで、発想の要素を明確にさせる。</p> 	<p>・表したいことをもち、材料の特徴やよさを生かして学習に取り組もうとしている。(造形への関心・意欲・態度)</p> <p>造形活動の要素が明確に分かるワークシート</p> <p>・友達の発想や表し方に共感したり、よさを感じとったりしている。(鑑賞の能力)</p>
2	<p>「わたしの世界」にいる自分の姿を想像してみよう。</p> <p>【交流する場面】</p> <p>・自由にポーズをとって、写真を撮影する。</p>	<p>・印刷後の写真の大きさを伝えることで、作品にどのように生かしていくかを児童がイメージしやすくする。</p> <p>・作品に生かすポーズを、友達と交流しながら撮影させる。</p>	<p>・表したいことを基に、友達との交流を生かしながら楽しく写真のポーズを発想している。(発想や構想の能力)</p>

3 ・ 4	<p>自分の写真をもとに、「わたしの世界」をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の写真を、箱の中の「わたしの世界」に配置する。 <p>【ワークシートの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート①を記入する。 ワークシート①で考えた発想や、材料と自分の写真との関係性を楽しみながら、「わたしの世界」をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真と材料の組み合わせを楽しみながら試していくことができるようにする。 写真と材料との組み合わせを生かして、児童が自分のアイデアを生かすことができるように声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真と材料の組み合わせのよさや面白さに気づき、材料の使い方やつくり方を工夫している。(創造的な技能) 写真と材料の組み合わせから、「わたしの世界」を発想している。(発想や構想の能力)
5 ・ 6	<p>友達の世界におでかけしてみよう。</p> <p>【交流する場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達との交流を通して感じた思いを基に「よい瞬間」を見付け、見付けたよい瞬間を学級全体で鑑賞する。 <p>【ワークシートの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート②を記入する。 <p>「わたしの世界」をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達との言葉や作品を通しての交流を経て、新たな思いで「わたしの世界」をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が交流を行い、できあがった作品の変化をデジタルカメラで画像に残し、発表に使用させる。  <p>友達の世界に自分の写真をもって「おでかけ」することで生まれる交流と対話。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表し方のよさに共感し、交流しながら、「よい瞬間」を見付けている。(鑑賞の能力) 素材の特徴のよさに興味をもち、写真との組み合わせ方を工夫している。(創造的な技能)
7	<p>友達の世界におでかけをしてみよう。</p> <p>【ワークシートの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート③を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目の「おでかけ」の経験を生かして、深まった表現に注目して写真をとるように声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表し方のよさに共感し、交流しながら、「よい瞬間」を見付けている。(鑑賞の能力)
8	<p>自分の作品をみんなに紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品で楽しかったアイデアや友達と協力してできた場面を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時で記入したワークシート③を基にして、児童が発表できるように場の設定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の表し方に共感したりよさを感じとったりして造形的な見方・考え方を広げている。(鑑賞の能力)

(6) ワークシート

ワークシート① (第1時使用)

ワークシート② (第4時使用)

ワークシート③ (第8時使用)

ワークシートの使用について

本題材では三つのワークシートを使用した。

ワークシート①は、児童の発想・構想を、題材に合わせた造形要素に応じて記入する内容である。

ワークシート②は、友達との交流を通して見たことや感じたことを言葉でまとめ、自分の造形活動に生かしていく内容である。

ワークシート③は、作品の完成後に学習の振り返りをする内容となっている。

(7) 成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの位置付けを明確にし、発想を言語化して整理させたことによって、児童が明確に「思いをもつ」ことができた。 ○作品をつくりながら友達と交流する場面を設定することで、児童が試行錯誤しながら発想を広げていくことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●友達とつくりながら交流する場面において、さらに活発な交流が行われるように児童のグルーピングを工夫するとともに、多くの児童と自然に関われるようにする必要がある。

3 検証授業②

(1) 題材名 「いろいろなでこぼこから広がる世界」 A 表現(1)イ (2)イ B 鑑賞(1)ア

対象 第4学年

(2) 題材の目標と研究主題との関連

題材の目標

いろいろな材料の凸凹の面白さを見付け、組み合わせた版を写し取る活動から表したいことを思い付き、材料の接着やローラーの使い方を工夫して、すすんで表現する。

共通事項

ア：材料や版に表す活動を通して、形や色などの感じが分かること。

イ：材料や色などの感じを基に自分のイメージをもつこと。

研究の視点 「つくり、つくりかえ、つくる」活動のプロセス

友達と交流しながら、版をつくったり、刷ったりすることを繰り返して、自分が表したいことを表すことができる。

【ワークシートの活用】

- ・ 既習事項を生かして、児童がすすんで活動し、新たな表現方法を思い付き、主体的に取り組むことができる題材を設定する。
- ・ 表現と鑑賞の力を相互的に働かせるために活用する。
- ・ 学びの積み重ねを意欲につなげる。
- ・ ワークシートから児童の思いを見取り、それに合わせて指導内容を精選したり、共感的な言葉掛けをしたりする。

【交流する場面の設定】

- ・ イメージを交流したり、友達の活動を見たりしやすい場を設定する。
- ・ 思いを言語化し、共有したり交流したりすることで活動への意欲を高める。
- ・ 活動の前に鑑賞する時間を設け、自他の活動に興味をもち、認め合い、新たにやってみたいことを思い付くなど、活動を活性化する機会とする。

(3) 題材の評価規準

造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
つくり出す喜びを味わい、材料や色の組み合わせを試して、すすんで版に表す学習に取り組もうとしている。	形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、表したいことを見付け、どのように表すかについて考えている。	表し方や用具の使い方を工夫し、経験を生かし、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことに合わせて表している。	自分の作品について伝えたり、友達の表し方に興味をもったり、互いのよさを味わったりしている。


(4) 指導観


中学年の児童は、心に思い浮かんだことを簡単な絵や図、時に言葉を用いてかきとめるなど、表したいことの大体のイメージをもつことができる。また、材料を触りたい、用具を試してみたい、とにかくまずやってみようといった物事に対する強い興味と、自分が体感したことがエネルギーとなり、活動が次々に展開していく一面がある。また、今までの材料や用具の経験や既習事項を生かすことで、自信をもって活動を進めることができる。

しかし、「表したいことが何も思いつかない」「失敗した」と感じ、意欲が低下することがある。そうしたときは、友達が別の視点で捉え直してくれたり、教師の共感的な声掛けや改善のための助言を受けたりすることで意欲を高めることにつなげることができる。

本題材では、木版画の経験を生かし、コラグラフ（コラージュ版画）の技法に出会う。版画表現は版をつくることで何度も同じ絵ができる。そして、インクや紙を変えることで、より自分のイメージを伝わるようにしたり、雰囲気を変えたりできることへの強い興味を、「つくり、つくりかえ、つくる」活動につなげる。

(5) 題材指導計画

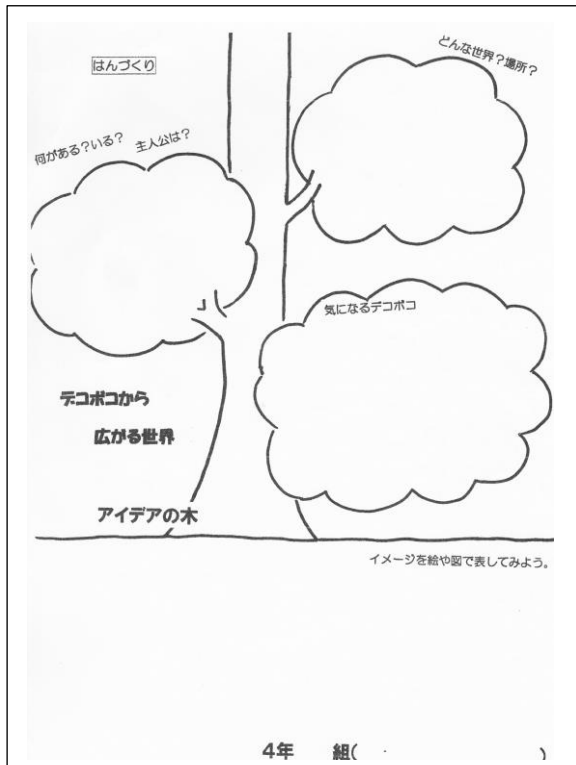
時	めあて 学習内容	指導上の留意点	具体的な評価規準
1 ・ 2	<p>デコボコな材料を組み合わせ、はん画のはんをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・触り心地が違う様々な材料に触れ、版画の活動へのイメージをもつ。 <p>【交流する場面】</p> <p>【ワークシートの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴や、思い付いたことをグループで共有し、ワークシート①に記入する。 ・それぞれの素材の凸凹の特徴を生かし、並べ方や組み合わせを工夫し、版をつくる。 ・活動を振り返り、次回の活動の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いをもつことに難しさを感じている児童には、気になる材料や、表したいもののイメージを引き出し、ワークシートに書き留めるなどの支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コラージュ版画に興味をもち、材料の凹凸を生かしてすすんで表現しようとする。（造形への関心・意欲・態度） ・形や色などの感じを基に、表したいことを見付け、自分なりのイメージをもって材料の組み合わせや版のつくり方を考えている。（発想や構想の能力） ・材料の特徴を生かし、接着の方法など版のつくり方を工夫している。（創造的な技能）

<p>3 4 5 6</p>	<p>色のちがいや、色と色の組み合わせを工夫して刷ろう。</p> <p>【交流する場面】 【ワークシートの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達作品を鑑賞し、感じたことを話したり、ワークシート②に記入したりする。 <p>※○○みたい！ ※○○色で刷りたいな。 ※どんな風になる（刷り上がる）かな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・版に付け足したり、自分のイメージに合った刷り方を試したりする。 <p>※インクの色組み合わせや、混色を工夫して刷る。 ※2色でグラデーションをつくりたいな。 ※今度は版のここを変えてみよう。 ※もう一枚版をつくろうかな。 ※できあがった版画を並べてみよう。</p> <p>【ワークシートの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返り、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と交流すること楽しみ、感じたことを伝えて、技能面だけでなく、表現することの楽しさや工夫を重ね、粘り強く取り組むことを学び合えるよう支援する。 ・児童へ共感的に声を掛け、刷り上がった作品から、児童が一人一人の思いをもって次の活動を見付けられるよう支援する。  <p>「見付けたこと、感じたこと」「学んだこと」「次にやりたいこと」などを、自身の学習の調整につながるものになるように価値付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の表したいことや表し方などについて、感じたり考えたりして自分の見方や感じ方を広げている。（鑑賞の能力） ・材料や色の組み合わせを試して、すすんで版に表す学習に取り組もうとしている。（造形への関心・意欲・態度） ・自分のイメージに合った色の組み合わせなどを選び、どのように表すかについて考えている。（発想や構想の能力） ・木版画の経験を生かし、ローラーの使い方や色の組み合わせを、表したいことに合わせて工夫している。（創造的な技能）
<p>7 8</p>	<p>でき上がったはんのかざり方を考え、かんしょうし合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品を鑑賞し、よさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品のよさなど、伝えたいことを伝えられるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、造形的な面白さや美しさ、表したいことや表し方などについて、感じたり考えたりして、自分の見方や

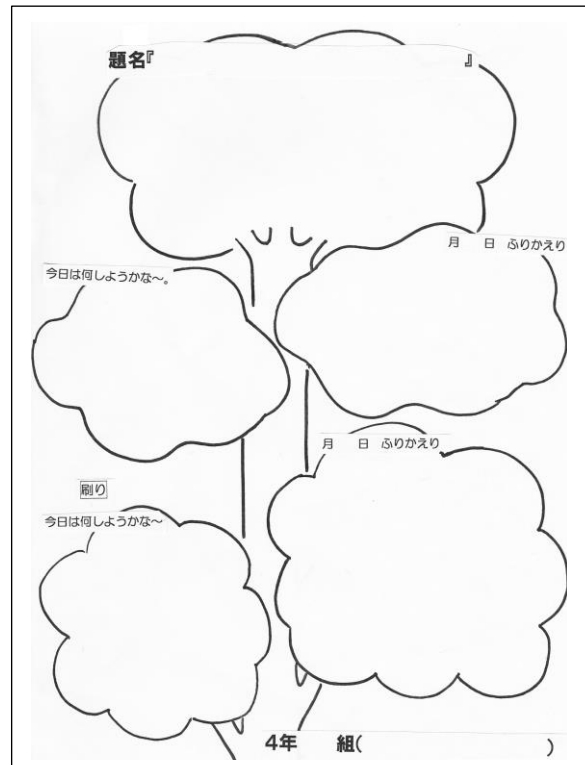
			感じ方を広げている。(鑑賞の能力)
--	--	--	-------------------

(6) ワークシート

ワークシート① (第1時使用)



ワークシート② (第3～6時使用)



ワークシート①は、児童の発想・構想を題材に合わせた造形要素に応じて記入する。心に思い浮かんだことを簡単な絵や図でも表せるようにした。ワークシート②は、目標を立て、活動し、内容を振り返る内容にし、児童が学習の実態を確認できるようにした。

(7) 成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートの活用によって、児童が活動の見通しをもつことができ、一人一人が主体的に取り組むことができた。また、学習の積み重ねを実感することによって、意欲が高まった。 ○教師は児童一人一人の学習の積み重ねを把握し、指導内容を精選したり、共感的な言葉掛けをしたりすることができた。 ○制作や鑑賞の中で、友達と関わり合いながら、表したいことを思い付くことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●交流する場面を設けることで友達の作品に興味をもつようになったが、自分が感じたことを言葉にしたり、伝え合ったりすることができるようになるには、さらなる手だてが必要である。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

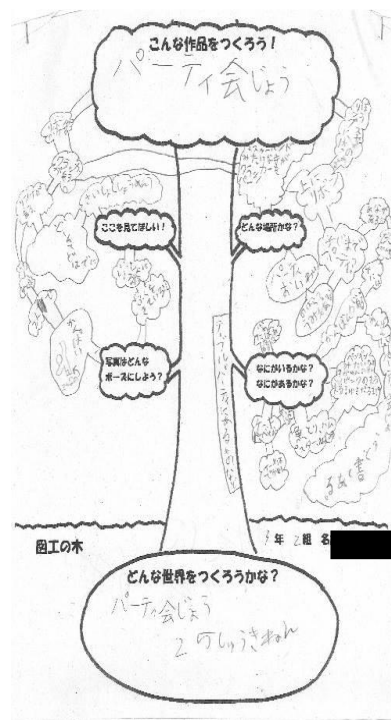
研究の成果について、研究の手だてに沿って整理して示す。

(1) ワークシートの活用

ア 検証授業①「のぞいた さきには」より

箱の中をのぞいた先にどんな世界が見えるか想像し、紙材を中心とした材料を組み合わせて自由に立体構成をする題材である。要素を分けて記入することができるロジックツリー方式のワークシートを用いたことで、児童が「思いをもつ」際に何について考えるべきかを明確にすることができた。さらに、第2時以降の授業では、木が成長していくようにワークシートを貼り足し、「友達の素敵なアイデア」や「これからつくってみたいもの」などへ児童の意識を自然と向かわせていくことができたため、児童が造形的な見方・考え方を働かせながら、主体的に造形活動を進めるのに効果的であった。

また、活動途中もワークシートを見返して自分自身の活動を振り返る姿、前時の授業で記入した内容から本時の活動のめあてを決める姿、前時の内容を書き換え、よりよく作品をつくりかえていこうとする姿が見られた。



(2) 交流の場面の設定

ア 検証授業①「のぞいた さきには」より

箱状の空間につくり込んでいく題材では、児童が自分の世界に夢中になりがちであるため、活動の中盤に、切り取った自分の写真で友達の作品の中に遊びに行く「おでかけタイム」を設定した。友達と交流しながら友達の作品を鑑賞することができ、「これ、面白いね、自分もやってみよう。」「すごいのをつくるから、私の所にも遊びに来て。」などと、発想を広げたり、深めたり、造形活動への意欲をさらに高めたりする姿も見られた。このように、児童が楽しみながら自然に交流することができる「おでかけタイム」を設定することによって、「つくり、つくりかえ、つくる」プロセスの充実につながった。



イ 検証授業②「いろいろなでこぼこから広がる世界」より

様々な材料の凸凹の特徴を捉え、それらを組み合わせたり、切って形を変えたりしながら、表したいことを思い付き、版画に表していく題材では、第3時の授業の冒頭と第8時のまとめの鑑賞の場面で交流を取り入れた。第3時の制作途中の版を自由に鑑賞し自分の言葉で班の友達に伝える交流場面では、4～5人の少人数での交流であったため、一人一人が自分の感じたことを友達に伝えようとする姿や、友達の話を熱心に聞こうとする姿が見られた。また、友達の作品や、友達の見方・考え方に触れることで、「それ、私も使ってみよう。」と自分の思いを新たにもって挑戦しようとする姿や、「そんなやり方もあるんだ。」と自分の思いを形にする方法に気付く姿、自分の作品をつくりかえ、「自分が納得するまでやる。」と最後までやり切ろうとする姿も見られた。また、第8時の交流場面では、一度ワークシートに記入した言葉を手掛かりに交流する姿も見られ、ワークシートを活用し児童の思いを言語化する活動が、その後の交流の場面にも効果的であることが検証できた。



2 今後の課題

(1) ワークシートの活用

全児童のワークシートを並べてみると、びっしりと埋め尽くすように言葉を書き込んだり、図を描いたりしている児童もいれば、空白が目立つ児童もあり、ワークシートを書き始める時点で、もっている思いに既に大きな差が見られた。ワークシートに向き合う中で、どの児童も自分の心を探り、自分の思いに気づき、やってみたいことを見付けられるようにするためには、提示するワークシートの形式や言葉を工夫したり、自分が感じたことを言葉やスケッチで表すことを習慣化させたりするなど、更なる研究を深めていく必要がある。

(2) 交流の場面の設定

交流の場面では、さらに活発に交流が行われるように、児童のグルーピングを工夫するとともに、多様な見方や考え方に触れさせるために、より多くの児童と交流できる方法を考えていく必要がある。また、表現と切り離された交流にならないように、交流する内容や交流のタイミングを見極めていく必要があると考える。

平成 31 年度 (2019 年度) 教育研究員名簿

小学校・図画工作

学 校 名	職 名	氏 名
目 黒 区 立 駒 場 小 学 校	主任教諭	◎小 林 麻 里
江 戸 川 区 立 第 三 葛 西 小 学 校	主任教諭	近 藤 愛
八 王 子 市 立 上 壺 分 方 小 学 校	主任教諭	小 林 真 純
調 布 市 立 調 和 小 学 校	教 諭	黒 川 枝 里 子
町 田 市 立 高 ヶ 坂 小 学 校	主任教諭	北 澤 剛

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育指導課
課長代理 杉山 博亮

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
小学校・図画工作

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849